



中学地理



(11)

デジタル 資料集

シーエーアイ教育システム

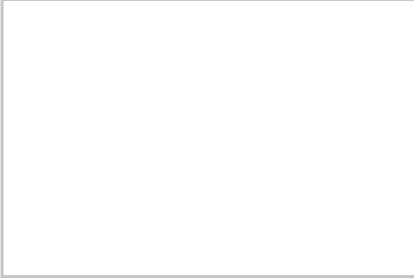
アルプス=ヒマラヤ造山帯

アルプス・ヒマラヤ造山帯（アルプス・ヒマラヤぞうざんたい）は、地球の造山帯のひとつ。地中海・ヒマラヤ造山帯と呼ばれることもある。アルプス山脈からヒマラヤ山脈を通り、インドシナ半島まで東西に延びている。現在も活発に活動している造山帯・地震帯。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%AB%E3%83%97%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%83%92%E3%83%9E%E3%83%A9%E3%83%A4%E9%80%A0%E5%B1%B1%E5%B8%AF>

フィヨルド

フィヨルド（[ノルウェー語](#)等：**fjord**、異称：峡湾、峡江）とは、氷河による浸食作用によって形成された複雑な地形の湾・入り江のこと。ノルウェー語による通俗語を元とした[地理学用語](#)である。湾の入り口から奥まで、湾の幅があまり変わらず、非常に細長い形状の湾を形成する。



ノルウェーのフィヨルド



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%A8%E3%83%AB%E3%83%89>

リアス式海岸

リアス式海岸（リアスしきかいがん、ria coast）は、**沈水海岸**の1つ。リアス海岸ともいう。太平洋に面した、三陸海岸の南部はせまい湾が複雑に入り込んだところのこと。

谷が**沈降**してできた**入り江**を、溺れ谷（おぼれだに、drowned valley）という。もともと**海岸線**に対して垂直方向に伸び、**河川**により**浸食**されてできた**開析谷**が溺れ谷になり、それが連続して**鋸**の歯のようにギザギザに連なっているような地形をリアス式海岸という。海岸線に対して平行な開析谷が沈水した場合は、**ダルマチア式海岸**と呼ばれる。海岸線に直角な隆伏の激しい地形が沈水するとリアス式海岸になり、さらに沈水が進むと**多島海**になる。元々、これらの沈水は谷の周辺の沈降によって起きたと考えられていたが、**気候変動**などの研究が進み、**最終氷期**が終わったことによる世界的な**海水面**の上昇によるものと考えられるようになった

リアス式海岸の鋸の歯のように複雑に入り組んだ入り江内は、**波**が低く水深が深いため、**港**として古くから使われた。溺れ谷に河川が流れ込み続けるなど、**汽水域**としての環境もあり、**沿岸漁業**や**養殖**などの**漁業**が中心として営まれる。



舞鶴湾のリアス式海岸



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%82%B9%E5%BC%8F%E6%B5%B7%E5%B2%B8>

フォッサマグナ

フォッサマグナ (Fossa Magna) は、日本の主要な地溝帯の一つで、地質学においては東北日本と西南日本の境目とされる地帯。中央地溝帯とも呼ばれる。語源はラテン語の "Fossa Magna" で、「大きな窪み」を意味する。

本州中央部、中部地方から関東地方にかけての地域を縦断位置する。西縁は糸魚川静岡構造線（糸静線）、東縁は新発田小出構造線及び柏崎千葉構造線とされる。東縁については異説もある。しばしば糸静線と同一視されるが、糸静線はフォッサマグナの西端であって、「フォッサマグナ＝糸静線」とするのは誤りである。つまり、地図上においては、糸静線は「線」であるが、フォッサマグナは「面」である。端的に言えば、古い地層でできた本州の中央をU字型の溝が南北に走り、その溝に新しい地層が溜まっている地域である。



薄い赤色の地域がフォッサマグナ



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%83%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%82%B0%E3%83%8A>

カルデラ

カルデラ (caldera) とは、**火山**の活動によってできた大きな凹地のこと。「釜^[1]」「鍋^[2]」という意味の**スペイン語**に由来し、カルデラが初めて研究された**カナリア諸島**での現地名による。

本来は地形的な凹みを指す言葉であったが、**侵食**および**埋没**により元の**地形**を留めていない場合などにも、過去にカルデラであったと認められるものはカルデラと呼ぶ



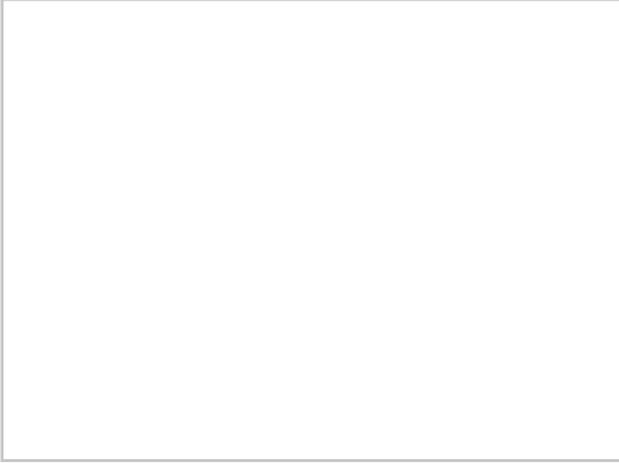
フィリピンのピナトゥボ山。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%AB%E3%83%87%E3%83%A9>

扇状地

扇状地（せんじょうち、alluvial fan）とは、河川が山地から平野や盆地に移る所などに見られる、土砂などが山側を頂点として扇状に堆積した地形のこと。扇子の形と似ていることからこの名がある。扇状地の頂点を扇頂、末端を扇端、中央部を扇央という。複数の河川が複合してできた扇状地を合流扇状地（confluent fan）、形成期が異なる扇状地が重なり合ってきたものを合成扇状地（composite fan）という。また、海底にも扇状地は存在し、そのような扇状地を海底扇状地(submarine fan)という。なお、以上のような流水があることが主な成因となっている扇状地の他に、火山活動が主な成因となっている扇状地も存在する。



黒部川扇状地



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%87%E7%8A%B6%E5%9C%B0>

三角州

三角州（さんかくす、元の用字は三角洲）は、河口付近で見られる地形で、枝分かれした2本以上の河川（分流）と海で囲まれた三角形に近い形をしている。ギリシア文字のデルタ（ Δ ）に似ていることから、デルタ、デルタ地帯とも呼ばれる。

河川の上流から流れてきた砂などが堆積することにより形成される。大河の場合は河口に複数の三角州が形成されることもあり、それらを総体的にデルタまたは三角州と呼ぶこともある。

形成の条件は、河川からの十分な量の土砂供給があること、河口付近の海底地形が土砂を堆積できる形態であること、河口付近の潮流が土砂を侵食し過ぎないことである。

上記の条件の組み合わせにより、三角州の形態は単純なデルタ状ではなく、円弧状三角州やカस्प状〔尖状〕三角州、鳥趾状三角州となる。

一般にモンスーンアジアの河川は傾斜が急で流量も大きいため、河川の運搬作用が大きく、河口に三角州を形成している場合が多い。モンスーンアジアで三角州は主に水田に利用されている。



ナイルデルタ



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E5%B7%9E>

偏西風

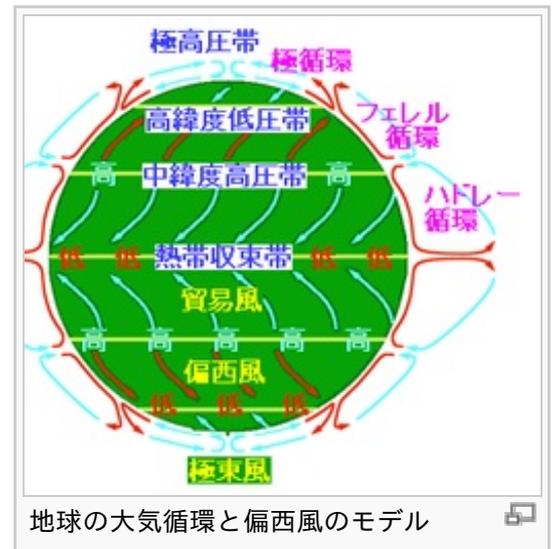
偏西風（へんせいふう）とは中緯度においてほとんど常時吹いている西寄りの風のこと。

地表付近においては亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）から極側に吹き出す風がコリオリの力によって東向きとなり偏西風となる。

また、赤道付近の気は極付近の気よりも暖められているため、静水圧平衡の関係より上層においては赤道が高気圧、両極が低気圧となっている。このため地衡風の関係により中緯度上層においてもやはり西向きの風が吹き偏西風となる。

偏西風は温度風の関係のために高度とともに強くなり対流圏界面付近で風速が最大となり、ジェット気流とよばれる。

ジェット気流が強い地域は低気圧が発達しやすい。またジェット気流の位置の季節変化は梅雨の原因の一つとされている。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%81%8F%E8%A5%BF%E9%A2%A8>

モンスーン

ある地域で、一定の方角への風が特によく吹く傾向があるとき、その風を**卓越風**と呼ぶが、季節によって風の吹く方角（卓越風向）が変化するものをモンスーン (monsoon) と呼ぶ。**アラビア語**の**季節**（モウスム、الموسم、Mawsim）に由来する用語である。

これは、**アラビア海**で毎年**6月**から**9月**にかけて南西の風が、**10月**から**5月**にかけて北東の季節風が吹き、沿岸諸国の海上貿易、交通に大きな影響を与えていたことによる。もともとは毎年同じ時期に行われる行事のことを意味していたが、アラビア海で時期によって向きが変わる風のことを指す語となり、その後、季節風を意味する気象用語として広まった。アフリカの**サブサハラ**や南米などでは雨季の嵐や大雨を、インドや東南アジアでは雨季そのものを意味する語としても使用されている。



モンスーンによる厚い雲、インド南部の**ナーガルコイル**にて

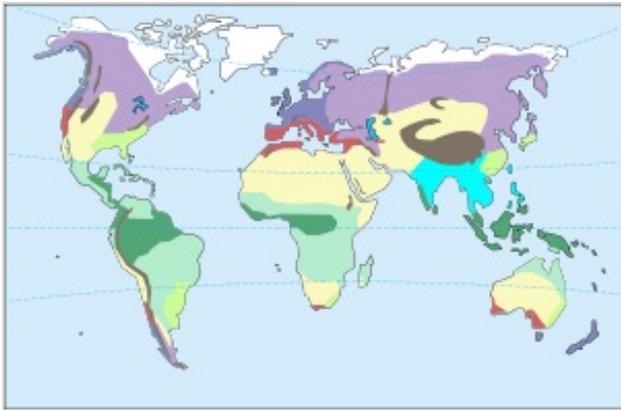


<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%A3%E7%AF%80%E9%A2%A8>

気候帯

気候帯（きこうたい）は、世界各地の気候特色がよく似た地域をいくつかの区域に分けた気候区分である。ケッペンの気候区分が有名。

気候帯形成の主要な要因は、太陽熱輻射に伴う気温分布によるものであり、概ね緯度に並行した分布となる。気温による区分では、熱帯、亜熱帯、温帯、冷帯、寒帯に分けられるが、降水量によって区分する場合もある。ケッペンの気候区分では気温と降水量を組み合わせ、熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯、寒帯に分ける。冷帯を亜寒帯と言う場合もある。



気候区分により色分けした世界地図

赤道気候	温暖湿潤気候	乾燥気候
熱帯気候	大陸性気候	高地気候
モンスーン気候	海洋性気候	
	地中海性気候	



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%97%E5%80%99%E5%B8%AF>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%97%E5%80%99#.E6.B0.97.E5.80.99.E5.8C.BA.E5.88.86>

タイガ

タイガ (Тайга[□]) とは、ロシア語でシベリア地方の針葉樹林の意。ユーラシア大陸、北アメリカ大陸の北部 (亜寒帯) に発達する針葉樹林の純林のことを指す。本来は、閉鎖林ではなくツンドラへの移行帯である樹高の低い疎林を示す言葉であった^[1]が、高緯度地域の針葉樹林帯という意味も包含し、北方林 (Boreal forest) と同義になりつつある。



アラスカのタイガ。トウヒに近縁の *Picea glauca* が優占する。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%A4%E3%82%AC>

梅雨

梅雨（つゆ、ばいう）は、北海道と小笠原諸島を除く日本、朝鮮半島南部、中国の華南や華中の沿海部、および台湾など、東アジアの広範囲においてみられる特有の気象現象で、5月から7月にかけて毎年めぐって来る雨の多い期間のこと。

梅雨の時期が始まることを梅雨入りや入梅（にゅうばい）といい、社会通念上・気象学上は春の終わりであるとともに夏の始まり（初夏）とされる。また、梅雨が終わることを梅雨明けや出梅（しゅつばい）といい、これをもって本格的な夏（盛夏）の到来とすることが多い。ほとんどの地域では、気象当局が梅雨入りや梅雨明けの発表を行っている。

雨季の一種である。ただ、雨季が訪れる土地は世界中に多くあるが、梅雨はそれほど雨足の強くない雨が長期にわたって続く点に特徴がある。このため、カビや食中毒などに注意が必要な季節とされている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A2%85%E9%9B%A8>

台風

台風（たいふう、颱風）は、太平洋や南シナ海（赤道以北、東経180度以西100度以東）に存在する熱帯低気圧のうち、最大風速（10分間平均）が34ノット（17.2m/s）以上のものを指す。主に北緯2度～北緯40度付近の海上で発生（熱帯低気圧が発達して呼び名が「台風」に変わる）する。



宇宙から見た台風（平成16年台風第18号）



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B0%E9%A2%A8>

太平洋側気候

太平洋側気候（たいへいようがわきこう）とは、日本の太平洋側における気候をいう。太平洋岸式気候（たいへいようがんしききこう）とも呼ばれる。

日本の太平洋側に位置する地域の気候（夏季多雨多湿、冬季少雨乾燥）。気温は南高北低で、高地ほど低く低地ほど高い、海沿いほど温暖で内陸部ほど日較差・年較差が大きい。

日本国内各地の気候的特徴により区分され、ケッペンの気候区分とは独立した日本独自の気候区分。

ケッペンの気候区分では、日本海側気候や中央高地式気候、瀬戸内式気候などと同様に、亜寒帯(北海道、中央高地の一部と富士山頂はツンドラ気候)から亜熱帯までの地域が含まれる。

夏季、太平洋高気圧の吹き出しによる太平洋から吹く南風の影響を強く受け、高温多湿となる。降雨も夏季に集中する。

太平洋側の各地では、その北側に山地など南面する傾斜地を有する地域で急激な上昇気流が起き積乱雲（雷雲）が発生するため、夏季の雷日数が多い。

東日本以南では沖合いには黒潮（暖流）が流れている為、温暖な気候となる。特に沿岸部では霜も少ない為、房総半島や駿河湾・相模湾沿岸など、柑橘類や菜の花などが栽培される地方もある。

台風の襲来もこの太平洋側に多く見られる。

関東地方以北ではやませの影響で夏に気温が上がらず、冷害に襲われることもしばしばある。

北海道の太平洋岸では太平洋高気圧から吹く高温多湿の南風が三陸沖で親潮により冷やされて海霧に覆われる。

暖流の影響を受けない道東沿岸部では冷涼である。

冬季、日本海側から吹く湿った季節風は奥羽山脈や三国山脈、中央アルプスや中国山地で遮られ日本海側に大雪を降らせ、太平洋側には乾燥した風が吹く。関東地方ではこの風はからっ風と呼ばれ、場所によって赤城風や二荒風、筑波風などとも呼ばれる。

強い冬型の気圧配置で雪雲が山岳を越えた場合や、上空の気温が低い（上空1500mで-6℃未満または上空5500mで-30℃未満）所に低気圧や気圧の谷が近づいた場合には降雪がある。そのため、降雪日数は比較的少なく、平地部では積雪施策を執る地域が少ない。

定常的に冬季積雪が認められる地域（北海道・北東北の太平洋側、栃木県・静岡県の各一部など）は豪雪地帯・特別豪雪地帯に指定されており、これらの地域では平地部でも積雪施策が講じられている。

積雪地帯でも、冬季の降水日数が少ない地域は日本海側気候ではなく他気候に区分される。

梅雨（梅雨に類似する気象現象を含む）期、および南東からの季節風が吹いているときは降水日数（1mm以上の降水が観測される日）が多くなり、北西からの季節風が吹いているときは降水日数が少なくなる。モンスーン以外にも海からの湿った風が強い時に降水日数が増える傾向がある。



太平洋側気候の地域 (1:黄緑色)



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AA%E5%B9%B3%E6%B4%8B%E5%81%B4%E6%B0%97%E5%80%99>

日本海側気候

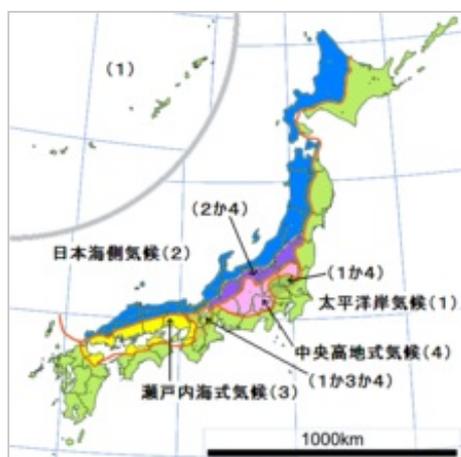
日本海側気候（にほんかいがわきこう）とは、日本の日本海側の冬型気候の特徴をなすもの。日本海岸式気候（にほんかいがんしききこう）とも呼ばれる。

ケッペンの気候区分では温暖湿潤気候が中心であるが北海道の大部分と東北地方北部の一部は亜寒帯湿潤気候である。梅雨（梅雨に類似する気象現象を含む）の他に、西高東低などで北西からのモンスーンが吹いているときは降水日数（1mm以上の降水が観測される日）が多くなり、風が弱いときや南東からのモンスーンが吹いているときは降水日数が少なくなる。モンスーン以外にも海からの湿った風が強い時に降水日数が増える傾向がある。気温は南高北低、沿岸部ほど温暖で内陸部ほど日格差・年較差が大きい。

日本海側気候の地域は、北海道および本州の中央分水界^[1]周辺とそれより日本海側に分布する。渡島半島から東北地方にかけては、その境界は那須火山帯が担う。

日本海側気候の多くは豪雪地帯・特別豪雪地帯だが、豪雪地帯・特別豪雪地帯で無い地域でも冬季の降水日数が多く且つ熱帯・亜熱帯ではない地域は日本海側気候に含める（島根県など）。逆に豪雪地帯・特別豪雪地帯であっても冬季の降水日数が少ない地域は日本海側気候に含めない（北海道・北東北の太平洋側、栃木県・山梨県・長野県南信地方・静岡県各一部など）。

北西からのモンスーンは、日本海を渡る際に暖流の対馬海流上で水蒸気を蓄えて山脈に衝かるため日本海側は降水が観測される。地上の気温が0℃未満又は地上の気温が0℃以上であっても上空1500mの気温が−6℃未満または上空5500mの気温が−30℃未満で雪となり、上空5500mの気温が−36℃未満で大雪、更に上空5500mの気温が−40℃〜42℃未満で豪雪となる場合がある。冬季はこのために降水日数が多い。



日本海側気候の地域（2:青色）

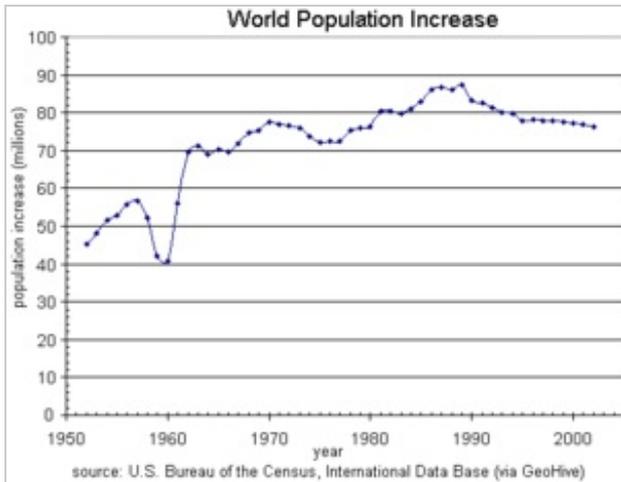


<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%B5%B7%E5%81%B4%E6%B0%97%E5%80%99>

人口爆発

人口爆発（じんこうばくはつ）とは、人口が急激に増加することを指して言う言葉である。人口がとどまるところを知らず増加するさまを、爆弾が爆発するさまに例えている。

世界人口は長く緩やかな増加を続けてきたが、19世紀末から現在に至るまで「人口爆発」と呼べるほどのスピードで急増した。西暦1年頃に約1億人（推定）だった人口は1000年後に約2億人（推定）に増え、その後1900年には15億人にまで増えた。それから約100年後の現在は65億人に迫る勢いである。今後は更に人口の増加が見込まれ、西暦2050年以降は100億人に達することが見込まれている。



全世界の人口増加数 横軸は西暦、縦軸は人口の増加数（単位100万人） 1960年前後の急減は中国における飢饉が原因。1960年代以降、人口増加数の伸び自体は一定水準にとどまるか、減少していることが読み取れる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E7%88%86%E7%99%BA>

高齢化社会

高齢化社会（こうれいかしゃかい）は、総人口に占めるおおむね65歳以上の老年人口が増大した **社会** のこと。人類社会は、一定の環境が継続すれば、ある一定の面積に生存している人口を養っていく能力に限界が訪れる。そして、人口を養う能力の限界に達し、ある程度の時間が経過すれば、必ず高齢化が顕在化してくる。高度に **社会福祉** 制度が発達した国家にあっては、その負担に応じるため労働人口が子孫繁栄よりも現実にある高齢化対策に追われるため、 **少子化** が進行して、さらなる高齢化を助長していく場合が多い。

高齢化と **少子化** とは必ずしも同時並行的に進むとは限らないが、 **年金・医療・福祉** など **財政** 面では両者が同時進行すると様々な問題が生じるため、少子高齢化と一括りにすることが多い。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E9%BD%A2%E5%8C%96>

過密

過密（かみつ）とは**大都市**に人口や都市機能が過剰に集まる現象を言う。対義語は**過疎**。

また、人口や都市機能が増大して過密の状態になりつつある状態、或いは過密が更に昂進する状態を過密化と言う。

一般に、過密現象は**首都**に現れることが多い。**官衙群**を中心として、その周りにオフィスが群を造って過密現象が起こることもあり、**東京都区部**（旧**東京市**）や**ソウル特別市**はこの典型となっている。

しかし、「政治の中枢」と「経済の中枢」を分離する国家であっても、「政治の中枢」と「経済の中枢」のいずれにも過密現象が起こることは珍しくない。

人口過密は大都市への人口・産業の集中に伴って起こる。**開発途上国**においても、特に新興工業国においてこのような現象が見られるが、これに加え、貧民が都市に集中し、**スラム街**を形成することもある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%8E%E5%AF%86>

過疎

過疎（かそ）とは、**村落**、**離島**などにおいて、**人口**が急激且つ大幅に減少したため、地域社会の機能が低下し、住民が一定の**生活水準**を維持することが困難になった状態をいう。

単に**人口**（密度）が極度に少ない（低い）状態をいう場合もあるが、後述するようにこれは正しい使い方ではない。対義語は**過密**。

人口が減少して過疎の状態になりつつある状態、或いは過疎が更に進行する状態を過疎化（かそか）という。過疎化が進行し、地域社会（**コミュニティ**）としての機能を失った集落を**限界集落**と呼ぶこともある。これは、大野晃が、「過疎化」では集落の深刻な現状を表現するのに不十分であると考え、考案した用語である。

過疎は、都市部への**人口移動**や**少子化**などが原因となって起こる。過疎化が進行すると、生活**道路**や**農業用水**など地域資本の管理、**農業**（**田植え**・**稲刈り**など）や**茅葺き**屋根の葺き替え時の助け合いといった互助機能、**冠婚葬祭**や**消防団**など地域社会の機能を維持することが困難になるとともに、利用者減少と**自家用自動車**利用の増加による**公共交通網**の崩壊（**鉄道**や**路線バス**の**廃線**・**撤退**や大幅な減便など）、**商店街**の衰退、**医療機関**の機能縮小、**学校**の**廃校**などといった社会資本（インフラ）の喪失が同時に進行する。

また、地方自治体（市町村）の**地方税**税収が落ち込み、独自財源を失うことによる**財政規模**の縮減や**財政再建団体**への転落、これに伴う住民の負担増がますます深刻化し、十分な行政サービスを提供できなくなる、地域産業の衰退を招くことで過疎化に拍車がかかるなどの問題を引き起こす。この上に、民間事業者が撤退した路線バスを引き継ぐ**廃止代替バス**の運行や公営**診療所**の維持といった新たな行政負担も発生することになる。特に過疎地域における医療サービスの確保は深刻な課題となっている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%8E%E7%96%8E>

ドーナツ化現象

ドーナツ化現象（ドーナツかげんしょう）とは、中心市街地の人口が減少し、郊外の人口が増加する人口移動現象。人口分布図で見ると、中心部が空洞化することからドーナツになぞらえて名付けられた。社会問題の一つ。主として日本国内に関して用いられる用語であり、一般的には郊外化・都心の荒廃も参照。

生活水準が向上すると、広い住宅に住みたがり、郊外に一戸建てを立てるのは、世界的な傾向である。日本も例外ではない。都市の成長と共に中心市街地では騒音や排気ガスの問題が起きるので、一般住宅が減少し、事務所や商業施設が増加する現象が見られる。従って、中心市街地では昼間人口は増えても、居住者（夜間人口）が減少し、コミュニティの崩壊などが問題になる。一方郊外においては、都心からの人口流入が急速である場合、それに対応する社会資本整備が追いつかない、無計画な都市化が進むなどといった問題が発生する。

郊外に住宅を取得し移転するのは、主に子供がいる生産年齢人口であることから、児童数の増減は、全体の人口以上に急激なものとなる。従って、中心部では、児童数の減少による学校の統廃合、郊外では、その増加による学校施設の不足や施設整備にかかる自治体の財政負担の重さなどが大きな問題としてとりあげられやすい。一方、中心市街地には、老年人口の比率の増加がみられ、高齢化が進む。2005年（平成17年）国勢調査では、六大都市の都心で高齢化が見られるようになった^[1]。

ドーナツ化が起こる原因としては、生活水準の向上、中心部の住居費の高騰や環境悪化、郊外への大型店の進出（それに伴う中心市街地の店舗の撤退）等による郊外の住環境の向上、都心部の住環境の悪化車社会への対応の遅れなどがあげられる。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%89%E3%83%BC%E3%83%8A%E3%83%84%E5%8C%96%E7%8F%BE%E8%B1%A1>

ペルシア湾

ペルシア湾（ペルシアわん、**ペルシア語**：خلیج فارس khaliġ-e fārs خلیج فارس Khalij-e Pars）は、ペルシヤ湾とも呼び、**イラン**、**イラク**、**クウェート**、**サウジアラビア**、**バーレーン**、**カタール**、**アラブ首長国連邦**、**オマーン**に囲まれた細長い形状の湾。アラビア湾とも呼ばれる。

面積はおよそ240,000平方キロメートルで、長さ約1千キロメートル。平均水深50メートル、最大90メートル。**ホルムズ海峡**を通じ、**オマーン湾**（**アラビア海**）と繋がっている。20世紀初頭までは、**真珠採集**などが盛んであった。20世紀前半にこの地域で**石油**が発見され、さらに大量産出地でもあることも判明した。20世紀後半には、**油田**開発が活発に行われ、湾内には多くの**油井**が存在する。油田地帯であり、また、石油輸送のための重要な水路であるため、戦略的重要性から国際政治の係争地となりやすい。**湾岸戦争**の湾とは、このペルシア湾をさす。

流入する大河は、湾最奥部のイラン・イラク国境を流れる**シャットルアラブ川**（**チグリス川**・**ユーフラテス川**）のみ。

アラビア語圏では、湾岸周辺にアラブ系住民が多いことからアラビア湾と呼ばれるが、国際的には"Persian Gulf"が正式名称として認知されている。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9A%E3%83%AB%E3%82%B7%E3%83%A3%E6%B9%BE>

石油危機

オイルショック（和製英語：Oil shock、英語：Energy crisis, Oil crisis）は、1970年代に二度あった、原油の供給逼迫および価格高騰と、それに伴う経済混乱のことを指す。石油危機または石油ショックとも称される。英語圏では、禁輸措置に力点を置いて"oil embargo"と呼ばれることもある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E6%B2%B9%E5%8D%B1%E6%A9%9F>

原子力発電

原子力発電（げんしりょくはつでん）とは、[原子核反応](#)時に出る[エネルギー](#)を利用した[発電](#)。ここでは地上の核分裂を利用した主に商業用の原子力発電について説明する。

- 原子力発電の[施設](#)に関しては[原子力発電所](#)を参照
- 核分裂反応を安全に維持する装置については[原子炉](#)を参照
- 核融合炉に関しては[核融合炉](#)を参照
- 軍用の推進機関としての原子炉については[原子力空母](#)、[原子力潜水艦](#)、[原子力船](#)を参照
- 宇宙での核反応を使った発電については[原子力電池](#)を参照
- 原子力関連の事故に関しては[原子力事故](#)を参照



泊発電所



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%9F%E5%AD%90%E5%8A%9B%E7%99%BA%E9%9B%BB>

混合農業

混合農業（こんごうのうぎょう）とは、家畜飼育と作物栽培を組み合わせた農業。ヨーロッパ中緯度地域の農業の基本形態である。三圃式農業が発展したもので小麦、ライ麦などの食用穀物と苑麦、トウモロコシ、根菜類などの飼料作物を栽培し、牛、豚などの肉用家畜や鶏などの家禽の飼育、販売も同時に目指す農業である。混合農業は、自給的混合農業と商業的混合農業に分けられる。前者は自家用穀物栽培の比重が高く、商品化される畜産物の比重が軽い農業で、飼料作物栽培の比重が高い。後者は飼料作物栽培の比重が高く、畜産物の販売に重点を置き、機会・肥料などを積極的に利用し、合理的な経営を展開している。

- 栽培する作物は小麦やライ麦が多いほか、家畜の飼料としてトウモロコシやテンサイなどが育てられる。これは、この地域が西岸海洋性気候で夏も涼しく、良質の牧草が育つためである。
- 機械の導入や輪作が行われ、土地生産性が高い。
- 東ヨーロッパでは自給的農業の場合が多く、西ヨーロッパやアメリカ合衆国では商業的農業が多い。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B7%B7%E5%90%88%E8%BE%B2%E6%A5%AD>

地中海性気候

地中海性気候（ちちゅうかいせいきこう）は、[ケッペンの気候区分](#)における気候区のひとつで温帯に属する。記号は**Csa,Csb,Csc**で、Cは温帯、sは夏季乾燥 (sommertrocken) を示す。

- [地中海](#)沿岸をはじめとする中緯度の大陸西岸に分布。
- 冬に一定の降雨があるが、夏は日ざしが強く乾燥する。
- 土壌は石灰岩の風化によってできたテラロッサが広く分布、乾燥に強いオリーブや、ブドウなどの果物、柑橘類などの栽培、牧畜が広く行われている。
- この気候区は温暖なことからリゾートとして発展している場所も多く、乾燥する夏季を中心に世界各地から多くの人を訪れる。



スペインのオリーブ農園



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E4%B8%AD%E6%B5%B7%E5%BC%8F%E8%BE%B2%E6%A5%AD>

プランテーション

プランテーション (plantation) とは、**大規模工場生産**の方式を取り入れて、**熱帯**、**亜熱帯**地域の広大な**農地**に大量の資本を投入し、先住民や**黒人奴隷**などの安価な労働力を使って単一作物を大量に栽培する大規模**農園**のこと。経営主体は、国営、企業、民間など様々である。経営する側をプランターと呼ぶ場合もある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>

NIES

新興工業経済地域（しんこうこうぎょうけいざいちいき、Newly Industrializing Economies : **NIEs**、ニーズ）とは、**発展途上国**のなかで**20世紀**後半に急速な**経済成長**を果たした**国**・地域の総称。

かつては新興工業国（Newly Industrializing Countries, **NICs**、ニックス）と呼ばれていた（しかし厳密には香港は中華人民共和国の行政区なのでこの表記は正しくない）。

1979年の**OECD**レポートでは以下の10カ国・地域を指していた。

- アジア: **韓国**、**台湾**、**香港**、**シンガポール**
- 新大陸: **メキシコ**、**ブラジル**
- ヨーロッパ: **ギリシャ**、**ポルトガル**、**スペイン**、**ユーゴスラビア**

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E8%88%88%E5%B7%A5%E6%A5%AD%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%9C%B0%E5%9F%9F>